

各ルートからの活動報告

目次

・ 東北第 1 号	のしろ白神の道	2～5
・ 東北第 2 号	ふくしま浜街道ハッピーロード	5～8
・ 東北第 3 号	みちのくおとぎ街道	9～10
・ 東北第 5 号	桑折宿まちなか街道	11～13
・ 東北第 9 号	青森エントランスロード	14
・ 東北第 10 号	巢子の松街道	15
・ 東北第 11 号	出羽の古道六十里越街道	16
・ 東北第 12 号	城下町あいづ道草街道	17
・ 東北第 13 号	広瀬川せせらぎ緑道	18
・ 東北第 15 号	弘前まちなか散策街道	19
・ 東北第 16 号	越後米沢街道・十三峠	20
・ 東北第 18 号	十和田奥入瀬浪漫街道	21
・ 東北第 20 号	黄花紅の東むつ湾ルート	22
・ 東北第 21 号	磐梯吾妻スカイ・レーク・ゴールドライン	23

下線のルートが本日発表いただくルートです。

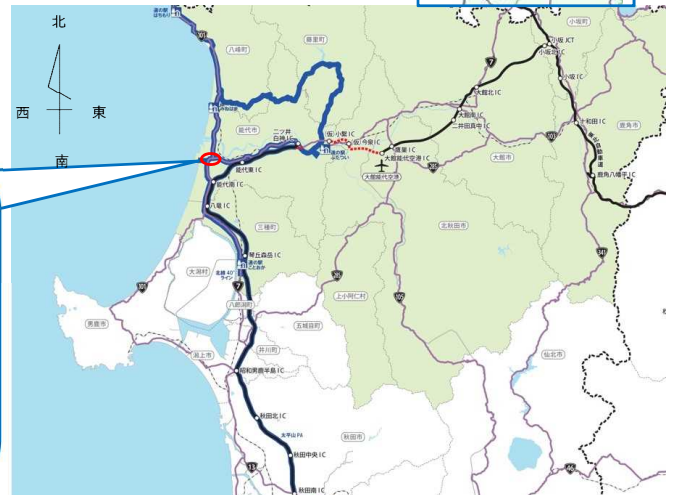
【パートナーシップ名】のしろ白神ネットワーク
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】国道7号、国道101号、米代フォレストライン(林業地域連絡林道米代線)、秋田自動車道
 【道路管理者】・国土交通省能代河川国道事務所
 ・能代市 ・秋田県 ・NEXCO秋田管理事務所

のしろ白神ネットワークの構成団体



ルート図

秋田県北地域の国道7号や秋田自動車道を中心としたルート(令和元年に約85km延伸)



木の香る道づくりモデル地区



【活動名称】

太平山パーキングエリア活用イベント

実施日時 平成31年4月27日(土)
 頻度 毎年1回
 活動場所 秋田自動車道 下り 太平山PA

【目的】

内装に秋田杉をふんだんに使用した太平山PAで木材利用や地域の魅力を発信し、秋田県北・能代山本地区の地域活性化や「のしろ白神ネットワーク」の取組、ルートの周知を目的とした活動。

【実施内容】

秋田杉製品や味噌たんぼ等地域の物産販売、秋田杉製ベンチ等による休憩コーナーや秋田犬ふれあいコーナーの設置、高速道路や観光の情報提供、道路事業や風景街道についてパネル展示による周知、高速道路施設における木材利用や高速道路整備に関するアンケートの実施。

【アピールしたいポイント】

- 高速道路休憩施設での木材利用と活用提案。
- 秋田県北・能代山本地区への誘客や情報提供を目的に連休初日にて実施。
- イベント効果をあげるため秋田犬コーナー設置。
- アンケート回収率をあげるため回答者へ花苗や秋田スギアロマオイル(NEXCO提供)をプレゼント。



▲屋台や秋田スギベンチ等によるおもてなし空間



▲観光パンフレットの配布や観光案内



▲秋田杉木工品の展示販売



▲来場者へのアンケート



▲大館市マスコットキャラクター はちくん



▲秋田犬ふれあいコーナー

【活動名称】

木製防護柵塗装イベント

実施日時 令和元年9月28日(土)
 頻度 毎年1回
 活動場所 国道7号
 (能代港入口交差点～豊祥袋交差点)
 参加人数 一般ボランティア約30人

【目的】

「木の香る道づくり」の一環として国道7号沿いに設置している木製防護柵の耐久性向上と景観美化を目的とした活動

【実施内容】

市広報や沿線の学校訪問等を通じてボランティアを募り、1組当たり10メートル程度の木製防護柵を塗装。

【アピールしたいポイント】

○子供から大人まで幅広い世代が参加できる簡単な作業ながら、メンテナンスが木材やインフラの長寿命化につながる事が理解できるイベント
 ○参加者には名前入り秋田杉コースターを贈呈



▲参加者への作業前説明



▲作業状況



▲参加者集合写真



▲秋田杉コースター



▲木製防護柵設置状況

【活動名称】

のしろ市民まちづくりフォーラム

実施日時 令和2年2月18日(火)
 頻度 毎年1回
 活動場所 能代市 旧料亭「金勇」
 参加人数 約80人
 (講演 国土交通省環境保全防災課長、
 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ代表、
 道の駅北前船松前駅長)

【目的】

市長や市民と共に各地域の先進的な取り組みや考え方を学ぶことにより、知恵を共有し、新たな連携や活動を見出すための活動

【実施内容】

14回のテーマは「日本風景街道を通して私たちにできること」。国土交通省 渡辺学 環境保全・防災課長に「日本風景街道の現状と今後」についてご講演いただいた。
 また、先進的な取組を進める北海道から2名の講師を招き風景街道と道の駅の連携について話題提供をいただき、来場者と共にフロアディスカッションを行った。

【アピールしたいポイント】

○全国各地の風景街道や地域づくりの先進事例を市長・市民と共に学ぶ一般参加型、無料イベント(14回目)
 ○提示された課題や取り組みを可能な範囲で実施
 ○能代山本地域の景観写真とビューポイントマップを展示し、観光資源の再発見を提示



▲実施状況



▲参加者とのフロアディスカッション



▲渡辺氏による基調講演



▲能代山本地域ビューポイントの展示



▲能代市長の参加



▲釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ代表 道の駅北前船松前駅長 の参加

【活動名称】

「のしろ白神の道」後援イベント

【実施内容】

○ときめきマルシェ

月に一度能代市上町の工房「咲く咲く」にて、マルシェを開催。月ごとのテーマに沿ったイベントや農産物、飲食など様々な品物を提供。

○のしろまち灯り

能代市役所屋外にて約600個の秋田杉を活用した灯りや灯籠を点灯。出店や吹奏楽団の演奏など様々なイベントを開催。大会議室では木育コーナーを開設。

○嫁見祭り

旧暦4月の2番目の申の日の前日に日吉神社にて開催。会場では「お嫁さん」に因んだ和洋菓子販売や飲食店が出店。敷地内にある木都能代の父、井坂記念館は夜間も特別開館する。

【アピールしたいポイント】

- マルシェは毎週開催している朝市と夏に開催していた「のしろまち灯り」の発展形。出店者を増やし、一区画を歩行者天国にして開催。
- のしろまち灯りと嫁見祭りは「のしろ白神の道」主催から、より多くの市民有志が参画する実行委員会形式で開催するイベントに発展。
- 後援イベントにはスギ製屋台やベンチ、テント等機材貸し出し



▲ときめきマルシェ



▲のしろまち灯り



▲嫁見祭り

【活動名称】

「のしろ白神の道」広報活動

【目的】

「のしろ白神の道」の取り組みや魅力について広く情報発信する。

【実施内容】

のしろ白神の道HP、能代河川国道事務所SNSにて「のしろ白神の道」の活動やイベント情報を発信、道の駅ふたついにビューポイントマップを掲示するなど連携している。道の駅ふたついの情報コーナーのリニューアルを実施。

【アピールしたいポイント】

- HPは四季毎に衣替えし、活動レポート・イベント情報を随時掲載。
- 即時性の高いSNSでの情報発信。
- 道の駅ふたついの情報コーナーに「のしろ白神の道」に関する情報を集約、ルールを決めて掲示。
- フォーラムなどにより他の地域にも情報発信、交流、連携に繋げる。



▲秋バージョンののしろ白神の道HP



▲能代河川国道事務所HPでのイベント広報



▲情報コーナーのリニューアル 改修前



▲情報コーナーのリニューアル 改修後

のしろ白神の道(今年度のコロナ禍における活動)

東北一第1号

【活動名称】 木製防護柵塗装イベント (2020.9.30)
【実施内容】 木製防護柵の耐久性向上と景観美化を目的に実施している。今年度は4度目の開催で、能代市立南中学校の生徒56名がボランティアに参加した。
【工夫】 マスクの着用や検温の実施、ソーシャルディスタンスの確保。



(左) 検温の実施 (右) ソーシャルディスタンスの確保

【活動名称】 ルート標示 (2020.10.1~)
【実施内容】 「のしろ白神の道」の周知を目的に、「のしろ白神の道」ルート上の標識柱や照明灯へステッカー貼付と道路情報板へのルート名標示を開始。



(左) ステッカーの貼付 (右) 道路情報板への標示

【活動名称】 木の香る道シールラリー (2020.11.1~12.20)
【実施内容】 「のしろ白神の道」の周知を目的に、「のしろ白神の道」ルート上の道の駅や地元店舗、太平山PA、八郎湖SA、計12箇所にシールとシール台紙を設置。景品交換の際にアンケートも実施。
【工夫】 3密回避のため、人を集めるイベントでなく人を分散させるイベントによりルート名の周知を図った。



(左) 道の駅「みねはま」の設置状況 (右) 道の駅「ことおか」の設置状況

今後の予定

【活動名称】 のしろ市民まちづくりフォーラム (2021.3.12)
【実施内容】 第15回目のテーマは「風景街道による持続的な地域みがき・地域づくり」。地域課題や社会的制約のある中で、風景街道を持続させ活性化させていこうにはどうしたらよいか。北海道の事例やのしろ白神NWと繋がり深い2ルート(1)の現状を共有し、秋田・能代のこれからを考える。
【工夫】 コロナ禍を踏まえ、web会議形式での開催を予定。

ふくしま浜街道ハッピーロード (令和元年度 年間活動報告)

東北一第2号

【パートナーシップ名】 ハッピーロードネット
【登録年月日】 平成19年12月5日
【中心となる道路の名称】 国道6号、常磐自動車道
【道路管理者】 ・国土交通省磐城国道事務所
 ・NEXCO東日本東北支社いわき工事事務所

ルート図



【活動名称】

未来のまちづくり・みちづくりフォーラム「第2回 高校生が被災地で考える防災サミットin Fukushima」

【目的】

東日本大震災において地震、津波、原子力発電所事故の複合災害に見舞われた福島県浜通りでは、震災の風化や原発事故への適切な認識、風評被害等が課題となっています。そのため、全国の複合災害というリスクを抱える地域の高校生に集まっていただき福島浜通りの現状を実際に見て感じ、道路等のインフラやまちづくりの復旧、整備等の状況を理解し、それぞれの地元で正しい情報を日本及び世界に発信していただくことを目的としています。

【実施内容】

開催日：令和元年7月25日(木)、26日(金)、27日(土)
 開催場所：東京電力廃炉資料館、特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま・他(視察)
 参加者：全国の原子力発電所所在道県の高校生 16校、33名、(うち福島県内は5校、11名)フォーラム参加者：250名
 令和元年7月25日(木)：ワークショップ(1)(現地見学含む)、高校生交流会、避難時宿泊体験
 令和元年7月26日(金)：ワークショップ(2)、高校生夕食会
 令和元年7月27日(土)：ワークショップ(3)、フォーラム、発表内容とりまとめ

【アピールしたいポイント】

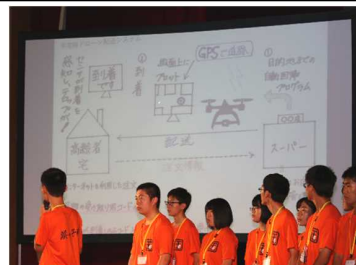
地域づくり、まちづくりなどをテーマとした、全国の高校生によるフォーラム、サミットを平成17年度から行っており、平成30年度からは、「防災」をテーマとして取り上げており、福島県内の高校生をはじめ、全国の高校生が福島浜通りで大震災時に何が起こりどのような対応を行い今に至るか福島浜通りの人々等と交流し、理解することでそれぞれの地元で伝承し、防災・危機管理について深く考えられる次世代のリーダーとして活躍することを期待しています。



ワークショップの様子



避難時宿泊体験



フォーラムでの発表

【活動名称】

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

【目的】

この活動は、国道6号のいわき市から新地町までの総延長163km区間内及び沿線県市町村道に、世界一の桜並木をつくり、地域の魅力を高めようとする取り組みです。震災前のまちづくりフォーラムにおいて、地元で就職したいと願う高校生の「国道6号を美しくすれば企業が来てくれる」との提案を受け企画しました。

地域住民やボランティア等が実施団体となり、道路の法面や緑地帯に桜の植樹を行い作った桜並木を、東日本大震災や原発事故のシンボルとして後生に語り継ぎたいと考えている。また、植樹後はその維持管理も実施し、地域の活性化と「愛するふるさとの復興」を作り上げていく礎となるような環境を整え、浜通り地方に元気と安らぎを与えられるような道づくりを進めることを目的として約2万本の桜を植える活動を実施している。

【実施内容】

- ・R1. 11. 26 広野町 鎌倉青年会議所 植樹
- ・R1. 12. 7新地町 山形霞城学園高校 植樹
- ・R2.2. 1 新地町 植樹
- ・R2.2.15 相馬市 国道 植樹
- ・R2.2.22 双葉町 植樹

【アピールしたいポイント】

2013年から開始した桜の植樹も、約1万1千本になりました。この桜植樹の取組は、浜通り地方再生の気運を高め、住民が夢と希望を持ち、健康で生き甲斐のある生活を取り戻すとともに、地域再生の核となる人材を育成するものです。

活動内容も年々ボランティアスタッフが増え、全国からの大学生・高校生も加わり、若い世代の人材育成、人材交流、継続的な活動に対する理解が拡大しています。全国から植樹ボランティアを募集することにより、全国に浜通り復興支援のネットワークが結成されています。

また、桜の成長に合わせて全国から桜見学の問い合わせが多く、桜見学後、浜通りの復興状況を視察するきっかけとなっており、桜植樹参加者のリピーターも増え、桜が波及的に福島復興状況のPR、風評被害払拭に寄与しています。

桜の管理についてはオーナー基金を募集し植栽・維持管理を実施しております。また、平成30年からは桜の維持管理費を賄うためクラウドファンディングに挑戦し多くの方からご支援頂いております。

【桜プロジェクト】



令和2年2月15日(土)相馬市大曲の国道6号で桜の植樹を行いました。植樹には、地元の高校生、ボランティアの方、相馬青年会議所、国土交通省、相馬市らの約120人が参加し、バイパス沿いに桜の苗木を植えました。



令和2年2月22日(土)双葉町の国道6号で桜の植樹を行いました。植樹には、除染事業関係者、ボランティアの方、スタッフら約50人が参加し、桜の苗木を植えました。

【活動名称】

みんなでやっぺ!!きれいな6国

【目的】

平成19年(2007年)に国道6号環境美化の普及啓発のため、国道6号沿線において子供達と地域の方々が一緒になって清掃活動を実施するものである。震災後から一時休止するも、平成27年から再開。

【実施内容】

日時: 令和元年9月14日(土)

場所: いわき市～新地町の国道6号沿線

「新地地区」「相馬地区」「南相馬地区(原町)」「南相馬地区(小高)」「浪江地区」「双葉地区」「富岡地区」「楢葉地区」「広野地区」「いわき市(久之浜P)」「いわき市(菅波P)」「いわき市(小浜P)」の全12箇所を実施

参加者: 地元中学・高校生や青年会議所、復興の携わる企業の方々等
約1600人が参加

【アピールしたいポイント】

「みんなでやっぺ!!きれいな6国」は、地元の中高生、住民、復興事業関係者などにより、桜プロジェクトの舞台となっている国道6号を一斉清掃する活動です。「6国」とは、「6号国道」の略で、福島県浜通りでは国道6号を愛情を込めて「6国(ろっこく)」と呼んでいます。

この活動は震災前から行っており、震災後の再開時には原発事故による放射線の影響を気にする批判的な意見などもいただきましたが、すでに避難指示が解除された地域での活動、子供たちの安全性をPRしながら活動を行いました。



R2.11.14(土)

「みんなでやっぺ!!きれいな6国」 国道6号清掃ボランティア

「みんなでやっぺ!!きれいな6国」はNPOハッピーロードが主催し、平成19年より(震災により一時中止)国道6号で実施している清掃ボランティア活動です。毎年、高校生、青年会議所、復興に携わる企業の方々、自治体、警城国道事務所職員ら約1,600人の参加により活動してきました。

今年は新型コロナウィルスの影響により開催自体を見送る考えも有りましたが、道路愛護の灯を絶やさめよう来年に繋ぐことを目的として、一般募集は行わず、規模を縮小してスタッフのみで実施することとなりました。

当日は、雲一つ無い快晴の中、約40人が参加し、富岡町、楮葉町、いわき市の国道6号沿いを歩きながら、空き缶やペットボトル、たばこの吸い殻などを拾い集めて汗を流しました。



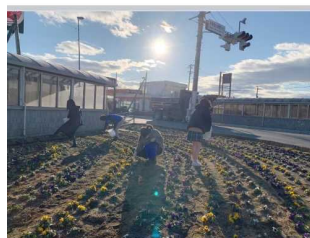
R3.1

活動を次世代へ

SDGs

活動を継続してきたことにより、花壇の花植えを地元高校生が自発的に提案してくるなど、ボランティア活動が着実に地域に根ざしています。

SNS抜粋



「30年後の故郷に贈る」

桜プロジェクト52文字メッセージです。

一言一言ふるさとに想いを込めて桜が語り部になっています。震災後の浜通りを桜が見守ってくれています。ありがとうございます

昨日は、素敵な1日でした。

ふたば未来学園の高校生が

「双葉町に花壇を作りたい。双葉町の人達が帰ってくる時に幸せの笑顔を見たいです。私にでも出来ることをしたいです」

と私達が活動している国道6号双葉厚生病院交差点の花壇を春からは彼女が挑戦します。

この花壇震災後は私達が一生懸命花を植えて皆さんに見てもらってますが、元々は2007年に今は原発事故で休校になっている双葉高校の一人の女の子が

「ここに花壇を作り病院に通院している人を笑顔にしたいから一緒に花壇を作って欲しい」

と始まった花壇。この花壇は高校生の女神がいます。

皆さん4月から楽しみにして下さいね。

私は、この高校生の気持ちに感謝し私達の地域づくりの活動の原点を見たような気持ちになり最高に嬉しい1日でした。皆さんの温かい応援のお陰です。感謝しています。

今はパンジーが寒い冬に耐えています。

【パートナーシップ名】国道113号(二市二町)観光推進協議会
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】国道113号
 【道路管理者】・宮城県
 ・山形県

ルート図



【活動名称】

みちのくおとぎ街道スタンプラリー

応募期間: 令和元年7月1日~12月31日

【目的】

宮城・山形両県の国道113号沿線二市二町の観光資源を新たに共同でPRし、また観光客の一層の誘客を図るとともに地域の活性化に資することを目的に実施しました。

【実施内容】

- ・二市二町内の該当施設を巡り、1市町につき1箇所のスタンプを押印するスタンプラリー
- ・4つの市町を全て周遊して押印の場合は「二市二町のペア宿泊施設利用券」(抽選で10組)、2つの市町の押印で「二市二町の特産品詰め合わせ」(抽選で40名)を贈呈
- ・ポスター作成、掲示
- ・該当施設(二市二町合計49箇所)にスタンプラリー用応募用紙、スタンプの設置
- ・賞品の抽選・発送、参加者からいただいたご意見の集計

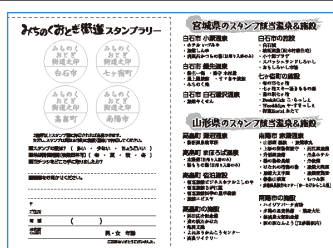
[主催]国道113号(二市二町)観光推進協議会

【アピールしたいポイント】

- ・平成22年度から始まり、令和元年度は、20都道府県から応募がありました。(遠方では北海道、大阪府、兵庫県から)前年に続いて応募されたいりピーターも多数いらっしゃいました。
- ・応募はがきには、参加者からのご意見・ご感想を記入できる欄を設け、いただいたご意見をもとに、協議会と構成市町においてさらなる誘客と地場産品のPR、新たな観光資源の掘り起こしを図っております。
- ・令和元年応募総数: 494通



▲みちのくおとぎ街道の二市二町



▲応募用紙の裏面

応募用紙の裏面には、スタンプラリーの対象施設を明記しているほか、ご意見・ご感想を記入できる欄を設けている。

【活動名称】

ツール・ドみちのくおとぎ街道「グル麺ライド2019」

開催日：令和元年9月22日（日）

【目的】

「景色」「文化」「食」をキーワードとしたサイクリングイベント。構成市町のご当地麺(南陽市：冷やしラーメン、高畠町：ひっぱりうどん、白石市：白石温麺、七ヶ宿町：そば)を食していただきながら、参加者に「また来よう」という動機付けとなるよう、誘客と地場製品の消費喚起を図ることを目的に開催しました。



【実施内容】

- ・「ツール・ドみちのくおとぎ街道実行委員会」設立
- ・専用ホームページの開設
- ・ポスターの作成・掲示
- ・コースの誘導や休憩ポイントでご当地麺を提供していただくボランティアスタッフの募集
- ・コース：高畠町をスタートし、七ヶ宿町、白石市、南陽市を經由してスタート地点に戻る約110km
- ・参加人数：443名(最大定員500名)

【主催】ツール・ド・みちのくおとぎ街道実行委員会 【共催】国道113号(二市二町)観光推進協議会
【後援】自転車活用推進本部・東北風景街道協議会・山形県・宮城県・高畠町物産協議会・たかひばらブランド認証事業所協議会

【アピールしたいポイント】

- ・参加者は、各エイドステーションや、休憩ポイントで「ご当地麺」や「おふるまい」(地元産のフルーツなど)に舌鼓を打ちながら地元の方々と「ふれあい」を楽しんでいます。
- ・老若男女問わず、ボランティアにご協力いただいています。



▲スタート地点(高畠町)



▲国道113号線を走行する参加者



▲沿道で手を振る住民とそれに応える参加者



▲エイドステーションでご当地麺を堪能する参加者

【活動名称】

みちのくおとぎ街道スタンプラリー

応募期間：令和2年7月1日～11月30日

【目的】

宮城・山形両県の国道113号沿線二市二町の観光資源を新たに共同でPRし、また観光客の一層の誘客を図るとともに地域の活性化に資することを目的に実施しました。

【実施内容】

- ・二市二町内の該当施設を巡り、1市町につき1箇所のスタンプを押印するスタンプラリー
- ・4つの市町を全て周遊して押印の場合は「二市二町のペア宿泊施設利用券」(抽選で10組)、2つの市町の押印で「二市二町の特産品詰め合わせ」(抽選で40名)を贈呈
- ・ポスター作成、掲示
- ・該当施設(二市二町合計52箇所)にスタンプラリー用応募用紙、スタンプの設置
- ・賞品の抽選・発送、参加者からいただいたご意見の集計

【主催】国道113号(二市二町)観光推進協議会

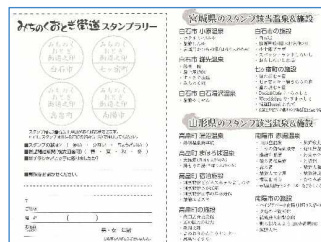


【アピールしたいポイント】

- ・平成22年度から始まり、令和2年度は、19都道府県から応募がありました。(遠方では、北海道、大阪府、広島県から)
- ・前年に続いて応募されたリピーターも多数いらっしゃいました。
- ・応募はがきには、参加者からのご意見・ご感想を記入できる欄を設け、いただいたご意見をもとに、協議会と構成市町においてさらなる誘客と地場製品のPR、新たな観光資源の掘り起こしを図っております。
- ・令和2年応募総数：890通



▲みちのくおとぎ街道の二市二町



▲応募用紙の裏面

応募用紙の裏面には、スタンプラリーの対象施設を明記しているほか、ご意見・ご感想を記入できる欄を設けている。

【パートナーシップ名】奥州・羽州街道「桑折宿」パートナーシップ
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】県道333号国見・福島線、町道4004線
 【道路管理者】・福島県
 ・桑折町

ルート図



【活動名称】

伊達氏ルーツと桑折宿探索ツアー

【目的】

地域の貴重な資源である伊達家発祥の地、奥州・羽州街道の追分「桑折宿」の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、交流人口拡大により地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

県内外から多くの方々が訪れる機会を作り、桑折町を知って頂くことにより交流人口の拡大を図ると共に町特産品等のPRにより地域の活性化を図るため、伊達氏ゆかりの史跡めぐり・奥州街道と羽州街道の追分「桑折宿」探索を6回実施しました。
 令和元年8月26、27日、9月21日、10月26、29日、11月8日実施 参加人数120名

【アピールしたいポイント】

伊達氏発祥の地であることから伊達氏の歴史に興味のある宮城県民をターゲットにし、宮城県内の新聞社に掲載や、道の駅にチラシを置いてもらったところ、参加者のほとんどが宮城県の方でした。また、季節を感じさせる郷土料理によるおもてなしでは、会話が弾み交流を深めることができ、感謝のメッセージが数多く寄せられました。



【活動名称】

桑折駅前イルミネーション

【目的】

地域の貴重な資源である桑折宿の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、集客をあげることで地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

桑折宿の奥州街道と羽州街道の分岐点追分近傍のJR桑折駅前広場をイルミネーションで彩る。
令和元年12月1日～令和2年1月31日実施 来訪者3000名

【アピールしたいポイント】

奥州街道と羽州街道の分岐点追分近傍の桑折駅前広場をイルミネーションで彩り、街道からの回遊により町内外からの訪れる人でにぎわいを創出することができました。



【活動名称】

献上桃の郷BBQフェス2019

【目的】

地域の貴重な資源である街道からの回遊と献上桃の郷の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、集客をあげることで地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

街道からの回遊と桃畑を活用した献上桃の郷BBQフェス、観光PRを図り賑わいを創出しました。
平成31年4月14日実施 来場者数1,000名

【アピールしたいポイント】

街道と桃畑を活用し、街道からの回遊による賑わい創出と、県内外や海外からの参加者があり認知度向上・交流拡大をはかることができ、桃咲くまちに笑顔が咲きました。



「道・絆プロジェクト2020」を活用した 伊達氏ルート桑折宿と奥州羽州相馬中村街道探訪ツアー

奥州羽州「桑折宿」パートナーシップ R3.2.4

町内のお母さんたちが地元の素材を
ふんだんに使った昼食でおもてなし

「道・絆プロジェクト」とは？

復興道路(相馬福島道路)沿線の団体と連携した広域的な交流に対する支援事業

伊達氏発祥の地である桑折と近隣の伊達市、国見町が連携し、縁の地を巡るツアーを実施

交通の要所 奥州街道・羽州街道・相馬中村街道の分岐点の追分



奥州藤原氏と鎌倉幕府との
激戦地阿津賀志防塁



伊達氏初代朝宗の墓所



伊達氏14代植宗の居城
桑折西山城本丸跡



全4回開催し、いずれも
定員以上の参加

伊達氏縁の地を訪れるための広域マップを現在作成中！

塩の道相馬中村街道と復興支援道路相馬福島道路

150年の時を経て塩の道相馬中村
街道が相馬福島道路として復活



「21世紀の追分」桑折ジャンクション



昨年7月に開通した伊達・桑折ICは国道4号
に直結する利便性の高いIC



塩の道相馬中村街道とは？
山形県置賜地方に塩を運ぶため、相馬から
桑折宿までつくられた街道。桑折宿から羽
州街道を経て運ばれた。

【パートナーシップ名】青森エントランスロード景観づくり推進会議
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】県道27号青森浪岡線、県道120号荒川青森停車場線、県道18号青森港線
 【道路管理者】青森県

ルート図



【活動名称】

街道沿道の植栽活動、景観向上

【目的】

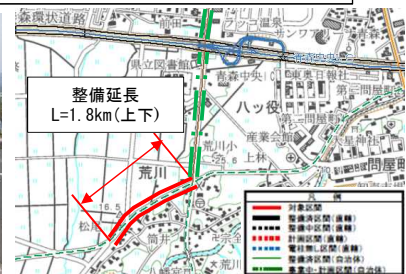
青森空港から青森市街地へのアクセスルートとなる青森エントランスロードについて、街道周辺の植栽を行うことで、訪れる人々に「青森らしさ」を感じさせ、「県の顔」となる景観づくりを目指した活動を行っている。

【実施内容】

- ・沿道花壇への植栽、沿道樹木の剪定を行い、エントランスロードの沿道美化、景観向上を推進した。
- ・エントランスロード沿いにおいて、将来的な景観向上にも資する無電柱化事業の設計に着手した。

【アピールしたいポイント】

青森エントランスロードは、青森空港から青森市内へのアクセス道路となり、青森の第一印象を与える重要なルートとなっていることから、空港等からの来訪者に青森らしさを印象付けられるよう、沿道美化、景観向上等に取り組んでいる。



【パートナーシップ名】 巢子の松街道パートナーシップ
 【登録年月日】 平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】 国道4号
 【道路管理者】 国土交通省岩手河川国道事務所

ルート図



【活動名称】

松並木の立木の生育状況調査と道路への危険木のチェック

【目的】

歴史ある貴重な松並木の持続的管理に資するために、立木の生育状況調査を継続し、優れた景観と交通安全との調和が図られるように危険木の点検を進める

【実施内容】

盛夏の8月を除く月1回の定例活動日を設定して、午前半日間の立木点検・手入れ・安全チェックなどを実施してきた(荒天時は中止)。参加人員は、1回平均3名ほど。

【アピールしたいポイント】

並木に生育する立木全てに個体番号を付け、それらの生育データを台帳に整備して、以後の並木管理がいっそう確実に進められる。
 (台帳の完成までには、あと数年の調査継続が必要)



5月の立木点検活動中



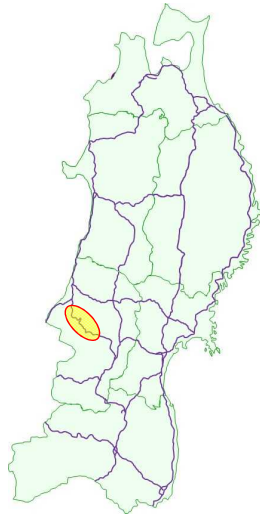
2月冬季の立木調査中



6月植樹箇所の下草刈払い手入れ

【パートナーシップ名】出羽の古道 六十里越街道会議
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】国道112号
 【道路管理者】国土交通省山形河川国道、酒田河川国道事務所

ルート図



【活動名称】

～自然の恵みに生かされ癒される～ 即身仏と食のフォーラム

【目的】

歴史ある街道を次代に引き継ぐため、フォーラムを開催。数多く祀られている「即身仏」についての学びを深めることで、湯殿山信仰の面影を感じとっていただき、他地域へのかくされた魅力の発信から街道への集客につなげることで、地域の活性化に寄与する。

【実施内容】

- ・実施日時 令和元年10月11日(金)8:30～15:30 *フォーラムは毎年開催(鶴岡市側と西川町側交互に)
- ・活動場所 ○三即身仏巡り 道の駅「月山」月山あさひ博物村 六十里越番所
(不動山 本明寺～湯殿山 注連寺～湯殿山総本山 大日坊)
- フォーラム 大網地区地域防災センター
- ・参加人数 約50名

【アピールしたいポイント】

- ・他に例のない朝日地域に現存する即身仏(3体)を拝観した後、庄内民俗学会の春山進・代表幹事の講演やパネルディスカッションによる多角的な意見交換を通じて、日本古来の山の自然と信仰の結び付きを今に伝える街道の魅力に理解を深めることができた。
- ・昼食では、六十里越街道弁当に旬のキノコ汁、地元ならではの「ぶどっぱ餅」などが振る舞われ、出羽三山信仰による風土との結びつきや地元とのつながりの深さなどが再認識された。



【パートナーシップ名】城下街会津道草街道推進協議会
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】国道252号、県道湯川大町線、市道幹1-7号線
 【道路管理者】福島県、会津若松市

ルート図



【活動名称】

「城下町あいづ道草街道」勉強会

【目的】

「城下町あいづ道草街道」に係る今後の活動の活性化、街道および周辺地域内の交流や連携を推進していくため、これまでの取組内容や課題、他地域の好事例を関係者間で共有するとともに、「城下町あいづ道草街道」の発展に向けた方向性の検討を目的とする。

【実施内容】

実施日時: 令和2年2月22日(土) 14:30~17:00
 活動場所: 会津若松市生涯学習センター(会津稽古堂) 3階 研修室3
 内容 : 講演「道の駅と風景街道 ~第3ステージの連携と協働~」講師: 石田 東生 先生(日本大学特任教授)
 フリートーク(道の駅と風景街道の連携方策、風景街道のPR・情報発信方法 など)
 閉会后、城下町あいづ道草街道の現地視察を実施
 参加人数: 計47名

【アピールしたいポイント】

- ・道の駅(または、まちの駅)との連携の可能性について意見交換。
- ・それぞれのパートナーシップの活動について紹介。今後は風景街道として一体となった取り組みが必要であることを認識。
- ・JR只見線と並行する国道252号について、新たに風景街道への登録を検討。



講演の様子



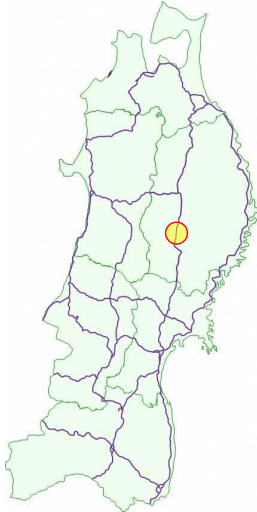
フリートークの様子



現地視察の様子

【パートナーシップ名】 広瀬川まちづくり倶楽部
 【登録年月日】 平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】 北上市2001019号北上駅鍛冶町線 他
 【道路管理者】 北上市

ルート図



【活動名称】

広瀬川まちづくり倶楽部

【目的】

広瀬川を活かしたまちづくり活動を通して、協働による中心市街地の活性化と景観づくりに資することを目的とする。

【実施内容】

- 広瀬川清掃活動
 - ・実施日時：年間12回程度（毎月第2水曜日実施）10:00~12:00
 - ・活動場所・内容：広瀬川せせらぎ緑道 河川の清掃・ごみ拾い・草取り・樹木の伐採
 - ・参加人数：年間134名
- 広瀬川せせらぎ緑道あかりプロジェクト（広瀬川行燈夜祭）
 - ・実施日時：令和元年9月28日（土）17:00~21:00
 - ・活動場所・内容：広瀬川せせらぎ緑道内で行燈28、絵灯籠6点灯、夢あかり180基点灯し、特設会場にて市内芸能団体5団体の公演、秋田羽後町北の盆による西馬音内盆踊り公演を行った。また近隣飲食店の屋台出店など。

【アピールしたいポイント】

緑道内の河川の清掃を毎月行い、まちの活性化、緑道沿いの飲食店の活性化につなげるため、広瀬川せせらぎ緑道にて年1回の行灯ナイトの開催を行っている。



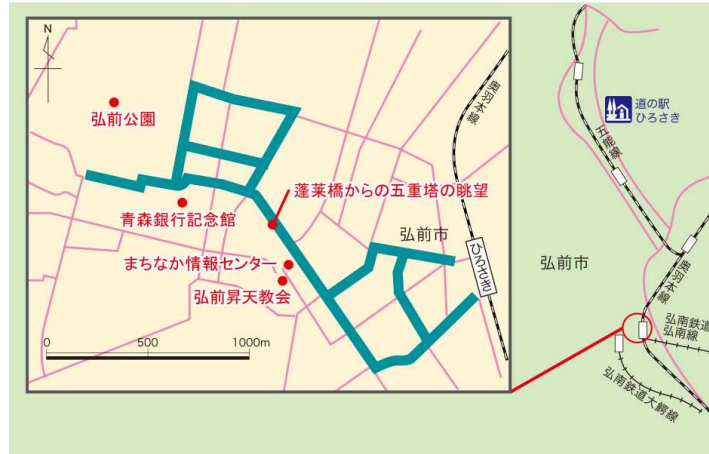
【パートナーシップ名】弘前市中心市街地活性化協議会

【登録年月日】平成20年12月11日

【中心となる道路の名称】県道3号弘前・岳・鱒ヶ沢線、市道駅前広場・土手町線

【道路管理者】・青森県
・弘前市

ルート図



弘前まちなか散策街道(令和元年度 年間活動報告)

【活動名称】

まちなかフラッグ事業

【目的】

弘前さくらまつり開催に合わせ、市中心市街地の街路灯をフラッグで装飾。JR弘前駅から弘前公園への徒歩ルートにおいて、中心商店街を通る回遊性向上に寄与するもの。

【実施内容】

実施期間: 2019年4月8日から2019年5月15日まで
設置場所: 弘前市中心市街地街路灯(駅前、大町、土手町エリアほか)
設置本数: 街路灯319本(取付フラッグ422枚)

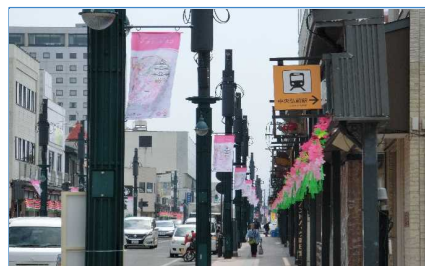
【アピールしたいポイント】

弘前さくらまつり公式応援キャラクター「桜ミク」とのコラボデザインにより、多くの観光客、市民の関心が集まった。

【フラッグ】

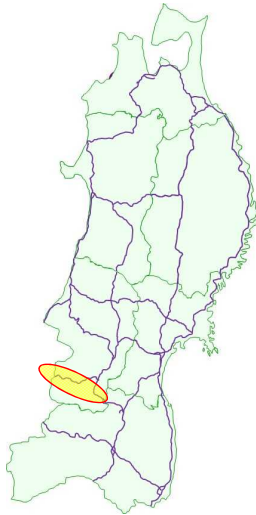


W460 × H990



【パートナーシップ名】越後米沢街道・十三峠交流会
 【登録年月日】平成20年12月11日
 【中心となる道路の名称】国道113号
 【道路管理者】・国土交通省山形河川国道事務所
 ・国土交通省羽越河川国道、新潟国道事務所

ルート図



【活動名称】

越後米沢街道・十三峠トレッキング

【目的】

全4回のトレッキングを通して、古の街道である越後米沢街道・十三峠(約47km)をすべて踏破することを目指して、8年連続開催している。

【実施内容】

- ・開催日 第1回 令和元年5月18日(土)諏訪峠、宇津峠、大久保峠 参加者: 27名
- 第2回 令和元年6月22日(土)才の頭峠、桜峠、黒沢峠、貝ノ淵峠 参加者: 28名
- 第3回 令和元年9月7日(土)高鼻峠、朴ノ木峠、萱野峠 参加者: 25名
- 第4回 令和元年10月5日(土)大里峠、榎峠、鷹巣峠 参加者: 30名
- ・十三峠トレッキングの案内人。
- ・実施状況はホームページ内のブログで紹介した。
- ・毎回、出発、到着場所からバスによる送迎を行っている。

【アピールしたいポイント】

- ・4回すべてに参加した方には、「全峠踏破証」と副賞を贈呈している。
- ・トレッキングの状況は、毎回ブログで紹介しているほか、動画(Youtube)でも配信している。
- ・地元の案内人が歴史や街道の魅力について説明している。
- ・街道の素晴らしさに魅了され、リピーターとなる。



【パートナーシップ名】十和田奥入瀬浪漫街道運営委員会
 【登録年月日】平成21年12月18日
 【中心となる道路の名称】国道4号、国道45号、国道102号、国道394号
 【道路管理者】・国土交通省青森河川国道事務所
 ・青森県、十和田市

ルート図



【活動名称】

十和田奥入瀬浪漫街道整備事業(十和田湖シンボル創造事業)

【目的】

日本の宝である十和田湖奥入瀬の玄関口にふさわしい街道として景観づくりを行う。
 景観づくりにより、街道を地域のシンボルに育てるとともに、観光客の誘客促進を図る。

【実施内容】

- 令和元年 6月16日(日) 街道沿線のあじさい植栽、除草
- 8月11日(日) 街道沿線の花壇除草
- 10月 6日(日) 街道沿線の花壇除草、あじさい剪定

【アピールしたいポイント】

- ・十和田市官庁街から十和田湖畔まで街道全体の拠点景観(見せ場)を整備する。
- ・高知県土佐市との交流事業の継続拡大と街道にふさわしい花として、「あじさい」を主体とした景観づくりを行う。
- ・地域全体の取り組みに発展させ、地域のシンボルに育てる。



【パートナーシップ名】黄花紅の東むつ湾ルート景観づくり運営委員会
 【登録年月日】平成21年12月18日
 【中心となる道路の名称】国道4号、国道279号
 【道路管理者】 ・国土交通省青森河川国道事務所
 ・青森県

ルート図



【活動名称】

なたね蒔き作業

【目的】

5月横浜町の菜の花を楽しみに訪れる皆さまに、少しでも多くの菜の花畑を楽しんでいただけるよう、国道沿いの景観の良い耕作放棄地を借り受けてなたね蒔き作業を昔ながらの手作業で行う。

【実施内容】

日時 : 2019年9月1日(日) 09:30~14:00
 場所 : 横浜町内(2か所で50%)
 参加者 : 県内トラスト会員&一般(合計25名)
 内容 : ナタネと肥料を混ぜ、バケツに入れ、手でばら蒔き。その後、覆土するため松ハロー。

【アピールしたいポイント】

トラスト設立以来毎年実施しています。参加者は昔に比べ子ども達の参加が少なくなっておりますが昔ながらの手作業を頑固に行っています。観光客の皆様にも少しでも喜んでいただけるようにと、特に国道沿いの休耕地に的を絞って行ってきました。もっと多くの子ども達に参加していただけるよう工夫していきます。
 写真は、左から、なたね蒔き、松ハロー、参加者の皆さん



【パートナーシップ名】磐梯吾妻安達太良観光推進協議会
 【登録年月日】平成29年4月7日
 【中心となる道路の名称】磐梯吾妻スカイライン、磐梯吾妻レークライン、磐梯山ゴールドライン
 【道路管理者】 ・福島県

ルート図



【活動名称】

磐梯吾妻安達太良観光推進協議会

【目的】

磐梯朝日国立公園内を走る観光道路は、磐梯山や吾妻山などの山岳と五色沼など湖沼群を走り、その雄大で美しい景観は誰もが堪能できる大パノラマであるとともに、豊かな温泉やフルーツ王国の味も堪能できる地域であることから、良好な景観の保全と観光振興を通して活力ある地域をつくり、以て風景の感動と共に味わえる街道づくりを目指すものである。

【実施内容】

- 「磐梯吾妻安達太良周辺ドライブマップ」の作成
夏・秋版、春版 各10万部発行。 イベント出展会場やNEXCO東日本SA・PA、道の駅、県内観光施設等へ配付。
- ホームページ「磐梯吾妻安達太良アクティブガイド」による情報発信(日本語、英語版)
主に磐梯吾妻3ライン周辺を中心とした観光情報、山岳情報等の情報発信を行った。
- 観光誘客イベントによる情報発信
磐梯吾妻スカイライン・磐梯山ゴールドライン再開通でのPR活動、県内外誘客イベントの出展、新聞・機関誌への広告掲載
- 環境省発行「日本の国立公園コンテンツ集2019」への掲載協力(3ライン周辺の体験コンテンツ、周遊コース集約での連携)

【アピールしたいポイント】

アピールポイント(「工夫した点」、「成果」、「他のルートへ好事例として紹介・情報提供すべき内容」等)を記述して下さい。

- 当観光道路の範囲が4市町村と非常に広範囲であることから、構成団体が互いに連携し、各エリアにおいて事業推進している。

